

(IV-92) 高齢者の生きがい対策としてのシルバー人材センターの活用

長岡工業高専○学生員 渡邊美香

長岡工業高専 正会員 湯沢 昭

1. はじめに

高齢化社会の急速な進展により様々な問題が顕在化してきている。特に新潟県を始めとする積雪寒冷地域においては、過疎地域の拡大、高齢化率の上昇、各種社会基盤整備の立ち後れ、さらには冬季間の除排雪問題等、深刻な状況に面している。このように人口減少と高齢者比率の増加に伴う地域活力の低下を防止し、如何にして活力のある地域を創造するためには、高齢者自身も地域の一員としての自覚と役割分担が求められている。著者等の過去の研究では、高齢者の意識として「働けるうちは働きたい」「地域づくりに貢献したい」と言った地域に対する積極的な姿勢が見られた。本研究は、高齢者の生きがい対策の1つとしての考えられる「シルバー人材センター（以下、センターとする）」を取り上げ、その現状と課題について検討を行うものである。

2. 調査の概要と各センターの概況

センターとは、高齢者に対し就業を通じての生きがいの場を提供し、福祉の増進を図ろうとする公益団体であり、概ね60才以上の高齢者を会員とし、地域社会における日常生活に密着した臨時的・短期的な仕事を会員に提供し、仕事の内容と実績に応じて報酬（配分金）を支払う仕組みで運営されている。新潟県では、1980年度に柏崎市において始めて社団法人として認可され、1996年度現在では、23のセンターが新潟県内41市町村に設置されており（新潟県の全市町村数は、112）、会員数は約13,000人である。本研究では、各センターの加入状況、過疎地域と都市部の違いによる業務内容や受託件数、加入者の変化等について分析する。

図-1は、1995年3月現在のセンター別の加入率（60才以上の高齢者人口に占める割合）を図示したものであり、男子では2.6%から10.7%までセンターにより大きく変化しているが、女子は1.1%から3.4%と男子に比較して1/2から1/3程度の加入率となっている。このようにセンターの加入率は必ずしも高い値ではなく、また地域により大きく異なることが分かる。その原因としては、センターの立地条件によるものと考えられる。すなわち、加入率の高い柿崎町、小出町、五泉市は、いずれも行政規模としては小さく高齢者にとっての就業機会が少なく、逆に加入率の低い新発田地域、長岡市、新潟市等の比較的大きな都市においては、就業機会に恵まれているものと思われる。次に都市部と過疎地域におけるセンターの活動内容について分析を行う。

3. 長岡市と十日町地域のセンターの活動状況

本稿では、都市部のセンターとして長岡市を、また過疎地域のセンターとして十日町地域（十日町市、川西町、津南町、中里村）を取り上げ、その活動内容の比較を行う。図-2は、両地域のセンターに登録している会員数の推移を図示したものであり、長岡市の場合は年々会員数が増加しているが、十日町地域は1989年度から会員数の増加があまり見られないことが分かる。図-3、図-4は長岡市と十日町地域の作業群別の契約金額の推移を図示したものである。いずれの地域とも、契約金額の最も多い群は軽作

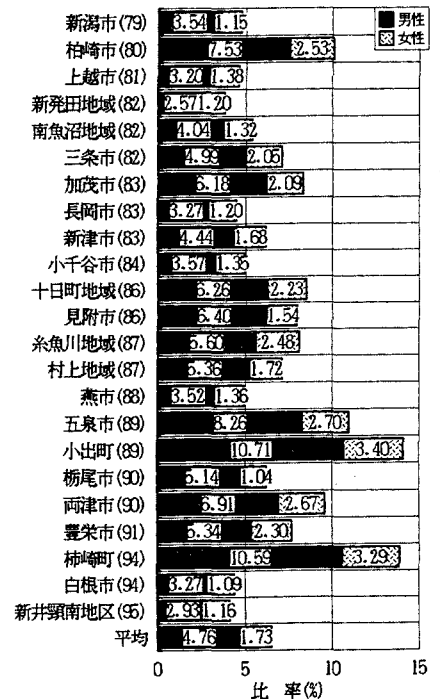


図-1 各センターの加入率()内は設立年度

表-1 長岡市センターの実績(1996年度)

群	受託件数 (件)	延(人) 人員	契約金額 (千円)	件(人) 人員/件	人員金額 (千円/人)
技 術	51	883	4,034	17.31	4.569
技 能	4,020	20,231	100,010	5.03	4.943
事務整理	956	6,862	31,140	7.18	4.538
管 理	467	16,683	63,557	35.72	3.810
折衝外交	90	1,133	4,167	12.59	3.678
軽 作 業	2,579	37,547	126,614	14.56	3.372
サービス	380	4,210	12,554	11.08	2.982
合 計	8,543	87,549	342,076	10.25	3.907

表-2 十日町地域センターの実績(1996年度)

群	受託件数 (件)	延(人) 人員	契約金額 (千円)	件(人) 人員/件	人員金額 (千円/人)
技 術	62	765	4,655	12.34	6.085
技 能	301	1,120	7,368	3.72	6.579
事務整理	198	728	3,671	3.77	5.043
管 理	436	13,003	64,404	29.82	4.953
折衝外交	119	1,753	8,755	14.73	4.994
軽 作 業	2,140	24,659	139,123	11.52	5.642
サービス	500	21,913	124,958	43.83	5.702
合 計	3,756	63,941	352,933	17.02	5.520

業群であるが、二番目は長岡市が技能群であるのに対し、十日町地域ではサービス群となっている。特に十日町地域におけるサービス群は95年度から急激に上昇していることが分かる。両センターの1996年度現在の登録人数は、いずれも900人程度であり、年間契約金額は、約3億5千万とほぼ同じ規模である(表-1、表-2参照)。しかし、職群別の受託件数や延べ人員、1件当たりの人員、1人当たりの契約金額を比較すると両者の間には大きな違いが認められる。群別の契約金額で比較した場合、両者とも前述したように軽作業が最も多いが(長岡市37.0%,十日町地域39.4%),第2位は長岡市では技能群が29.2%であるのに対し(十日町地域では2.1%),十日町地域ではサービス群が35.4%で第2位となっている(長岡市では3.7%)。軽作業群の内容として長岡市の場合では、清掃、除草・芝刈り、封筒入れ等の内職的手作業が多く、十日町地域では、屋外雑役作業、除草・芝刈り、清掃、土木作業の順となっている。また十日町地域のサービス群の具体的な作業内容としては、社会活動サービス、病弱者等福祉サービス、家事援助サービスが主なものである。すなわち過疎地域においては、高齢者自身が社会活動サービスや病弱者等の福祉サービスの一部を担っていることが分かる。一人当たりの契約金額を比較した場合、長岡市では作業群により金額が大きく変動しており、平均では3,907円となっているのに対し、十日町地域では作業群による金額の変動があまり見られず、また平均金額では5,520円と長岡市に比べて1.4倍となっている。その理由としては、長岡市の場合には一件当たりの延べ人数が10.2人と十日町地域の17.0人に比較して小さくなっていることから、比較的小規模の作業が多いものと思われる。

4. まとめ

本研究は、高齢者の生きがい対策としての働き場所の確保の観点から、シルバー人材センターに着目し、その実態について検討したものである。その結果、センターの登録会員数は地域により大きく異なっており、加入率も低いことが明かとなった。また高齢化の進む過疎地域においては高齢者による高齢者の看護や福祉サービスの需要が増加することが考えられる。そのためには会員数の増加対策が不可欠であると思われる。

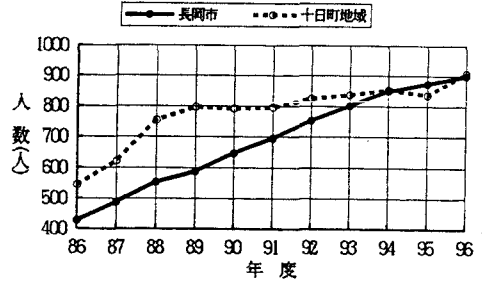


図-2 登録会員数の推移

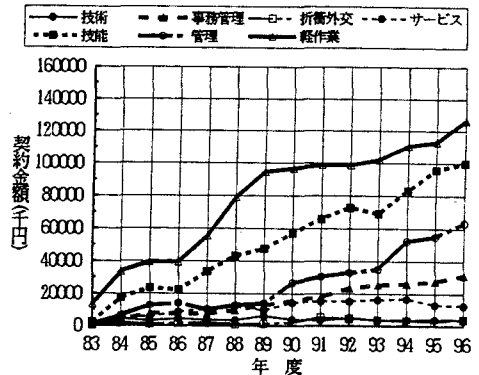


図-3 長岡市センターの群別契約金額の推移

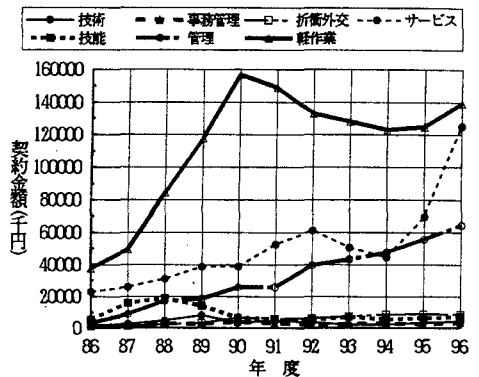


図-4 十日町地域センターの群別契約金額の推移